

公益財団法人平野政吉美術財団

令和 4 年度事業報告

<総括>

令和 4 年度の事業については、平野政吉コレクション、および藤田嗣治作品の展示公開、教育普及活動、および調査研究を行った。

美術館の指定管理については適切に実施した。

- ・展示公開事業は、常設展の他、特別展を 4 回、企画展を 2 回、開催した。版画家・川瀬巴水の作品を展覧した特別展「川瀬巴水展」では、前期・後期に分けて展示することでリピーターが増え、来館者数の増加につながった。また、秋田ゆかりの作品にフォーカスした展示が好評だった。生物の骨格に鮮やかな色彩を施した透明標本を展示した特別展「富田伊織 新世界「透明標本」展」では、全作品の撮影が可能であったため、子どもから大人まで幅広い層の来場者に恵まれた。特別展「藤田嗣治 子どもへのまなざし展」はポーラ美術館の全面協力のもと、藤田の子どもへの想いを紹介する展覧会だった。秋田初公開の藤田作品を展示したことや財団所蔵作品を中心とした 1930 年代の作品を多く展示したことで、県内のみならず県外からも藤田愛好家が多く来館した。特別展「岸田劉生展」は、油彩画や装丁画、水彩画など岸田の様々なジャンルの作品を展示したため、来館者にとって画家・岸田劉生を多角的に知ることができる展覧会となった。

企画展「藤田嗣治 パリへの郷愁」は、藤田のパリに対する郷愁の想いを、妻をモデルにした作品やパリの風景を描いた作品を展示することによって紹介。企画展「藤田嗣治が愛したもものたち」は生涯さまざまなものを蒐集した藤田が愛したもものやそれらをモチーフとした作品を展覧した。どちらの展覧会も、藤田の内面にせまる展覧会となった。

- ・教育普及事業としては、年度を通して講演会を 3 回実施した。特別展関連では、展覧会監修者や作品所蔵館の学芸員に講師を依頼した。作品や作家の研究者、専門家を招いての講演会は大変盛況であった。ワークショップ、美術館教室をあわせて 8 回行った。ギャラリートークについては、学芸員が担当した。企画展・特別展はそれぞれの展覧会会期中、2 回実施した。《秋田の行事》について解説する定例ギャラリートークは月 1 回および竿燈期間に実施した。
- ・調査研究の成果としては、新聞、雑誌への寄稿において、学芸員が展覧会に関連する調査研究成果、および藤田嗣治に関する研究成果を発表した。
- ・美術ホール運営事業は、秋田県主催、マスコミ主催の比較的規模が大きい展覧会が多く開催された。特別展「富田伊織 新世界「透明標本」展」の会場としても美術ホールを活用し、大規模な展覧を実現した。そのほか、特別展「川瀬巴水展」、特別展「藤田嗣治 子どもへのまなざし展」関連講演会の会場として美術ホールを活用、多くの参加者が講演を聴講した。
- ・美術ホール運営事業は、例年使用していた団体が活動を再開し、使用団体数が戻りつつある年度となった。大型の展覧会としては夏休み期間には、特別展「富田伊織 新世界『透明標本』展」を、秋田県、秋田魁新報社、秋田朝日放送、公益財団法人平野政吉美術財団の 4 者合同で行い約 15,000 人の来場を記録したほか、秋には国の事業である「工芸エキスポ」が秋田駅前を会場として開催され、全国から工芸関係者が集い県民ギャラリーでは 2 日間で約 4,000 人の入場があった。一般団体では美術大学の専攻展および卒業制作展

や魁新報社の秋田県美術展覧会などが行われ、昨年度から入場者数が回復しつつあった。

- ・売店事業は、来館者へのサービスの一貫として、業者への委託販売とインターネットでの販売を展開した。

I 展示公開事業

(1) 常設展示事業

常設展 平野政吉コレクションⅠ

- 1 会 期 令和4年4月16日(土)～7月3日(日)
※休館日：5月25日(水)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 平野政吉コレクションの中から、《北平の力士》や《五人女》、《吾が画室》など、1930年代の藤田の油彩画を展観した。
- 4 入場者数 12,296人

常設展 平野政吉コレクションⅡ

- 1 会 期 令和4年7月9日(土)～8月28日(日)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 藤田嗣治が描いた作品のなかから、アトリエを描いた油彩画、中国に取材した大作などを紹介した。
- 4 入場者数 4,889人

常設展 平野政吉コレクションⅢ

- 1 会 期 令和4年9月3日(土)～11月6日(日)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 平野政吉コレクションの藤田嗣治作品の中から、豊かな色彩が溢れる1930年代の作品群を展示した。
- 4 入場者数 8,795人

常設展 平野政吉コレクションⅣ

- 1 会 期 令和4年11月13日(日)～令和5年1月22日(日)
※休館日 令和4年12月31日(土)～令和5年1月2日(月)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 藤田嗣治が1930年代に制作した油彩画、日本画等を展示し、藤田の幅広い画風を紹介した。
- 4 入場者数 5,678人

常設展 平野政吉コレクションⅤ

- 1 会 期 令和5年1月28日(土)～4月16日(日)
※休館日 令和5年3月13日(月)～3月22日(水)
- 2 会 場 大壁画ギャラリー
- 3 内 容 平野政吉コレクションから、藤田嗣治が描いた豊かな色彩が溢れる1930年代の作品群を展示するほか、中国に取材した大作などを展示した。
- 4 入場者数 4,035人

(2) 企画展示事業

企画展	藤田嗣治	パリへの郷愁
1 会 期	令和4年7月9日(土)～8月28日(日)	
2 会 場	ギャラリー1・2	
3 内 容	藤田嗣治はフランス人女性のマドレーヌ・ルクーとともに1933年11月に日本へ帰国した。ふたりは東京戸塚(現在の新宿区高田馬場)に構えたアトリエに暮らす。1936年6月、マドレーヌが急死する。マドレーヌはモデルとして藤田作品にたびたび登場し、死後もその面影はパリの風景とともに描かれた。本展では、藤田がマドレーヌをモデルにした油彩画、パリの風景を描いた作品を中心に展覧。異国で亡くなった妻への鎮魂とパリへの郷愁が重なり合った藤田の想いを紹介した。	
4 入場者数	4,889人	

企画展	藤田嗣治	が愛したのものたち
1 会 期	令和5年1月28日(土)～4月16日(日) ※休館日 令和5年3月13日(月)～3月22日(水)	
2 会 場	ギャラリー1・2	
3 内 容	藤田嗣治は生涯、さまざまなものを収集した。本展では、藤田が心を寄せ愛したものをモチーフとした作品、平野政吉に譲渡された品である中南米の収集品などを中心に展覧した。	
4 入場者数	4,035人	

(3) 特別展示事業

特別展	川瀬巴水	旅と郷愁の風景
1 会 期	令和4年4月16日(土)～7月3日(日) ※休館日：5月25日(水)	
2 会 場	ギャラリー1・2	
3 内 容	大正から昭和にかけて活躍した版画家・川瀬巴水の初期から晩年にかけて制作した代表的な作品を紹介した。版元の渡邊庄三郎が推進した「新版画」の分野で活躍し、「旅情詩人」とも呼ばれた巴水が日本の風景を詩情豊かに描いた版画180点を前後期に分けて展示。秋田では初めて行う巴水の大規模な展覧会となった。日本全国の風景が題材となっており、その中には秋田を描いた作品もあることから、来館者にも親しみを持ってもらえる展示となった。「川瀬巴水のことには知らなかったが、特別展を見て新版画を牽引していた人物という事を知り勉強になった」「昔の人はこういうのを見て旅に憧れたのかなと思った」「巴水の夜の色がとても好きで見たいと思っていた。地元で堪能できて良かった」といった声が寄せられた。	
4 入場者数	12,296人	

特別展	富田伊織	新世界「透明標本」展
1 会 期	令和4年7月9日(土)～8月28日(日)	
2 会 場	県民ギャラリー	
3 内 容	は虫類や魚類などのタンパク質を特殊な薬液により透明にし、骨を着色することで骨格研究を行う透明標本を展示した。透明標本作家の富田伊	

織氏が制作した 500 点を超える透明標本を会場内に展示した。サイエンス、アートの両面から楽しむことのできる本展示はメインターゲットの子どものみならず大人達の興味をも刺激し盛況となった。また、主催の魁新報社および秋田朝日放送のメディア 2 社の協力もあり、広報も普段より強力に行われたほか、会場内全作品について写真撮影と SNS 発信が可能であったことから口コミでの広がりも活発に行われた。

4 入場者数 15,145 人

特別展 藤田嗣治 子どもへのまなざし

1 会 期 令和4年9月3日(土)～11月6日(日)

2 会 場 ギャラリー1・2

3 内 容 展覧会では、中南米・中国・日本各地などを旅した 1930 年代、戦後フランスに渡ってから晩年までの 1950 年代・1960 年代を中心に、藤田が描いた子どもの絵を紹介した。秋田では初公開となるポーラ美術館所蔵の《少女と果物》(1963 年)、《誕生日》(1958 年)、「小さな職人たち」シリーズなどの油彩画を中心に、藤田作品 47 点を展観。制作当時の社会情勢や藤田を取り巻く状況なども解説しながら、作品の背景にある藤田の想い、そして子どもに対するあたたかなまなざしを紹介した。来館者からは、「藤田の子どもに対する愛情を感じ、最初は不思議で独特な画風も、何度も繰り返し観ているうちに、愛らしくほほえましいと思えてきた」「藤田の目を通して描かれたフジタの子どもたち。とても愛らしく、さみしさも感じるような表情に目を奪われた」といった声も寄せられ、大変好評だった。

4 入場者数 8,795 人

特別展 画家 岸田劉生の軌跡展—油彩画・装丁画・水彩画などを中心に—

1 会 期 令和4年11月13日(日)～令和5年1月22日(日)

※休館日 令和4年12月31日(土)～令和5年1月2日(月)

2 会 場 ギャラリー1・2

3 内 容 油彩画をはじめとして、水彩画や素描、日本画、装丁画など様々なジャンルの作品を展示した本展は、日本の近代洋画を代表する画家のひとりである岸田劉生を多角的に捉えることのできる展覧会となった。油彩画家としての活躍や「麗子像」で知られている岸田劉生だが、幅広い分野の芸術活動とその作品を通して、一般的なイメージとは少し違った岸田の魅力を発見してもらえたと考える。来館者からは「岸田劉生の多面性を知ることができた」、「軌跡展」の通り、岸田劉生の人生、作風の変わり方、周囲の人間関係等、知らなかったことをじっくり学べた」といった声も寄せられた。

4 入場者数 5,678 人

※同時開催の展覧会の入場者数は、各々表記した。

II 教育普及事業

(1) 講演会等

特別展「川瀬巴水 旅と郷愁の風景」関連講演会

- 1 演 題 「川瀬巴水の版画世界—郷愁の日本風景を求めて—」
- 2 実施日 令和4年4月24日（日）
- 3 会 場 県民ギャラリー
- 4 講 師 岩切信一郎氏（本展監修者・美術史家）
- 5 内 容 美術史家で日本の新版画、印刷に関する研究の第一人者でもある岩切信一郎氏による講演会。新版画の歴史や特徴についての紹介をはじめ、その中における川瀬巴水や版元である渡邊庄三郎の動向について紹介していただいた。さらに、巴水作品の背景や見どころを解説していただき、新版画の魅力や奥深さに触れるひとときとなった。
- 6 参加者数 24人

特別展「藤田嗣治 子どもへのまなざし」関連講演会

- 1 演 題 「藤田の子供百態」
- 2 実施日 令和4年10月9日（日）
- 3 会 場 県民ギャラリー
- 4 講 師 内呂博之氏（ポーラ美術館学芸員）
- 5 内 容 ポーラ美術館学芸員・内呂博之氏による講演会。講演では、藤田がどのような想いで子どもを描いたのか、藤田の言葉や写真などとともに詳しく解説していただいた。また、藤田の画業を辿りながら、作品制作の経緯や作品にまつわるエピソードなども紹介。藤田の新たな一面を知ったという参加者も多く、貴重な機会となった。
- 6 参加者数 27人

特別展「画家 岸田劉生の軌跡展—油彩画・装丁画・水彩画などを中心に—」関連講演会

- 1 演 題 「岸田劉生 とんでもない人生」
- 2 実施日 令和4年11月13日（日）
- 3 会 場 レクチャールーム
- 4 講 師 長谷川徳七氏（株式会社日動画廊代表取締役社長）
- 5 内 容 日動画廊の代表取締役社長で笠間日動美術館館長でもある長谷川氏による講演会。戦後から現在まで画商として第一線で活躍している長谷川氏の経験や視点から、岸田劉生の波乱に満ちた人生を解説していただいた。長谷川氏が実際に取り扱ったこともあるという作品についてのお話も交えた講演で、参加者からは思いがけないエピソードも聞くことができ興味深い内容だったといった感想が寄せられた。
- 6 参加者数 28人

(2) ワークショップ・美術館教室

美術館教室「館長講話 子どもの絵について—小学校低学年のための美術教育—」

- 1 実施日 令和4年10月16日（日）
- 2 会 場 レクチャールーム
- 3 講 師 渋谷重弘氏（秋田県立美術館 館長）
- 4 内 容 渋谷館長の長年の研究、経験に基づいた講話では、はじめに子どもたちの実際の絵を参考として、0～8歳の絵の発達段階について解説。その後、創造性を育むための言葉のかけ方、アプローチの仕方なども説明した。参加者か

らは、自身の行動を振り返る声が多く届き、子どもの自主的な創造活動に寄り添う意義が伝わる講話となった。

5 参加者数 12人

美術館教室「手話による作品解説－《秋田の行事》と平野政吉コレクション」

- 1 実施日 令和4年9月24日（土）
- 2 会場 大壁画ギャラリー
- 3 講師 学芸員、手話通訳者
- 4 内容 《秋田の行事》を中心とした平野政吉コレクションについて、当館学芸員が手話通訳者を介して作品を解説。画家・藤田嗣治と秋田市の資産家・平野政吉が生きた時代を、《秋田の行事》を手掛かりに辿る内容となった。手話利用者だけでなく、利用しない方も含めた参加者の、作品に対する印象やイメージが少しずつ寄り合い、鑑賞が深まる一時となった。

6 参加者数 17人

美術館教室「館長によるデッサン・淡彩講座－花を描く－」

- 1 実施日 令和5年1月21日（土）、1月22日（日）
- 2 会場 レクチャールーム
- 3 講師 渋谷重弘氏（秋田県立美術館 館長）
- 4 内容 ワークショップでは、英字新聞で包んだチューリップの花をモチーフとした。2日にわたり開催した講座の初日はモチーフの構図の決め方から始まり、花の形状や陰影を意識して鉛筆デッサンに挑戦。2日目はデッサンの線を活かす色の重ね方を学んだ。水彩絵具で薄く色を重ねて淡彩を施すと、鉛筆の線と淡い色彩が響き合う作品が完成した。

5 参加者数 7人

ワークショップ「ミニランプシェードをつくろう！～和紙と画用紙でつくるクリスマスビレッジ～」

- 1 実施日 令和4年12月18日（日）
- 2 会場 レクチャールーム
- 3 講師 学芸員
- 4 内容 クリスマスの飾り・クリスマスビレッジをモチーフとしたミニランプシェードを作るワークショップ。参加者は作り方の説明を聞き、それぞれが想像するクリスマスビレッジの形に黒画用紙を切った。その後、好きな色を塗った和紙を黒画用紙に貼り付けて、自分だけのランプシェードが完成。最後は自分の作った作品にライトを当てて鑑賞を楽しんだ。まもなくクリスマスを迎えるこの時期にぴったりのランプシェードの完成に、大人も子供も心躍るひとときとなった。

5 参加者数 11人

ワークショップ「ブックカバーをかいてみよう！－私の表紙、あなたの表紙－」

- 1 実施日 令和5年1月15日（日）
- 2 会場 レクチャールーム
- 3 講師 学芸員
- 4 内容 はじめに本の装丁の歴史、また、開催中の特別展に関連して岸田劉生が描いた装丁画のモチーフや込められた想いなどについて当館学芸員がレクチャー。その後、参加者が持参した本のブックカバーを画用紙で作成した。カバーには、色鉛筆やオイルパステルで絵を描いたり、レースやリボンなどを飾り付けたりして、参加者それぞれが思い描く本の表紙を完成させた。読書とは違った視点から本と向き合うひとときとなった。

5 参加者数 5人

ワークショップ「はりがね動物人形をつくろう！」

- 1 実施日 令和5年2月19日（日）
- 2 会場 レクチャールーム
- 3 講師 学芸員
- 4 内容 針金と紙粘土を使って、猫をモチーフとした「はりがね動物人形」づくりに挑戦。芯となる針金に紙粘土をくっつけ、頭、手足や尻尾を造形して、各々が思い描く猫の動物人形が完成した。完成された動物人形は、数珠つなぎの関節が自在に動く形状になっている。面白おかしいその動きに、参加者は愛着がわいた様子だった。

5 参加者数 4人

美術館教室「聖霊高校ハンドベル部によるコンサート」

- 1 実施日 令和4年12月11日（日）
- 2 会場 エントランスホール
- 3 講師 学芸員
- 4 奏者 聖霊高校ハンドベル部
- 5 内容 藤田嗣治が晩年に手がけた礼拝堂に関連して秋田県立美術館 1F エントランスホールを会場にコンサートを開催した。はじめに学芸員が藤田と宗教画や礼拝堂について解説。その後、聖霊高校ハンドベル部にクリスマスに関連する曲を披露していただいた。曲の間には、ハンドベル部の生徒による曲ごとの紹介、ハンドベルの説明や鳴らし方などのお話があり、ハンドベルや演奏への理解がより深まる内容となった。

6 参加者数 56人

ワークショップ「《秋田の行事》クイズに挑戦！」

- 1 実施日 令和5年2月4日（土）、5日（日）
- 2 会場 にぎわい交流館 AU1階
- 3 講師 学芸員
- 4 内容 「《秋田の行事》クイズに挑戦！」を開催。同じブースで、ミニチュアべらぼう凧を作るワークショップも開催した。ワークショップでは、こどもたちが学芸員の指導を受けながら、べらぼう凧の台紙に顔を描き裏に竹ひごをつけて完成。表情豊かなべらぼう凧が完成した。

5 参加者数 130人

(3) 学芸員によるギャラリートーク

特別展「川瀬巴水 旅と郷愁の風景」ギャラリートーク

- 1 実施日 令和4年5月14日（土）、6月18日（土）
- 2 会場 レクチャールーム
- 3 講師 学芸員
- 4 参加者数 28人

特別展「藤田嗣治 子どもへのまなざし」ギャラリートーク

- 1 実施日 令和4年9月17日（土）、10月15日（土）
- 2 会場 ギャラリー1・2
- 3 講師 学芸員
- 4 参加者数 24人

特別展「画家 岸田劉生の軌跡展－油彩画・装丁画・水彩画などを中心に－」ギャラリートーク

- 1 実施日 令和4年12月3日(土)、令和5年1月14日(土)
- 2 会場 ギャラリー1・2
- 3 講師 学芸員
- 4 参加者数 35人

企画展「藤田嗣治 パリへの郷愁」ギャラリートーク

- 1 実施日 令和4年7月16日(土)、8月20日(土)
- 2 会場 ギャラリー1・2
- 3 講師 学芸員
- 4 参加者数 13人

企画展「藤田嗣治が愛したのものたち」ギャラリートーク

- 1 実施日 令和5年2月18日(土)、3月25日(土)
- 2 会場 ギャラリー1・2
- 3 講師 学芸員
- 4 参加者数 29人

常設展関連 定例ギャラリートーク《秋田の行事》を読み解く

- 1 実施日 令和4年4月2日(土)、5月7日(土)、6月4日(土)、7月2日(土)、8月3日(水)、8月4日(木)、8月5日(金)、8月6日(土)、9月3日(土)、10月1日(土)、11月5日(土)、12月3日(土)、令和5年1月7日(土)、2月4日(土)、3月4日(土)
- 2 会場 大壁画ギャラリー
- 3 講師 学芸員
- 4 参加者数 280人

Ⅲ 調査研究事業

1. 新聞寄稿

作品解説

- ・小泉俊貴「川瀬巴水《塩原おかね路》、《芝増上寺》「東京二十景」より」－「川瀬巴水 旅と郷愁の風景」出品作品『秋田魁新報』すいよう学芸館、令和4年4月13日
- ・小泉俊貴「川瀬巴水《田澤湖御座の石》「旅みやげ第三集」より、《平泉金色堂》」－「川瀬巴水 旅と郷愁の風景」出品作品『秋田魁新報』すいよう学芸館、令和4年5月25日
- ・小泉俊貴「藤田嗣治《お針子娘》『魅せられたる河』より、藤田嗣治《一九〇〇年》」－「藤田嗣治 パリへの郷愁」出品作品『秋田魁新報』すいよう学芸館、令和4年7月6日
- ・佐々木佳苗「藤田嗣治《少女と果物》、藤田嗣治《御者》『小さな職人たち』より」－特別展「藤田嗣治 子どもへのまなざし」出品作品『秋田魁新報』すいよう学芸館、令和4年8月31日
- ・小泉俊貴「岸田劉生《自画像》、岸田劉生《寒山風麗子像》」－特別展「画家 岸田劉生の軌跡－油彩画・装丁画・水彩画などを中心に－」出品作品『秋田魁新報』すいよう学芸館、令和4年12月7日
- ・佐々木佳苗「藤田嗣治《自画像》、藤田嗣治《ヴァンドーム広場》『魅せられたる河』より」－企画展「藤田嗣治が愛したのものたち」出品作品『秋田魁新報』すいよう学芸館、令和5

年2月1日

IV 美術ホール運営事業（貸しホール事業）

1. 事業内容

- ・県民ギャラリーの使用者に対しては展示構成を確認し、展示作業の補助および作業監視を行った。
- ・大型の特別展事業を行った。
- ・特別展「富田伊織 新世界『透明標本』展」では美術ホールを使用して展示を行った。
- ・セカンドスクールで来館した児童・生徒に、美術ホールで開催している展覧会の鑑賞を勧め、特別展や企画展との相互利用を促した。

2. 実績

総入場者数 30,905人

主な使用履歴

- ・第64回秋田県美術展覧会 写真部門展示 主催：秋田魁新報社
令和4年6月24日（金）～29日（水）、入場者数：1,697人
- ・特別展 富田伊織 新世界「透明標本」展
主催：透明標本展実行委員会
（秋田県、秋田魁新報社、AAB 秋田朝日放送、公益財団法人平野政吉美術財団）
令和4年7月9日（土）～8月28日（日） 入場者数：15,145人
- ・KOUGEI-EXPO in AKITA 主催：秋田県伝統的工芸品月間推進協議会
令和4年11月19日（土）～20日（日）、入場者数：3,838人
- ・秋田公立美術大学卒業・修了展2023「ゆらせ」 主催：秋田公立美術大学
令和5年2月16日（木）～20日（月）、入場者数：1,350人
- ・第62回 全県新年書きぞめ展 主催：（有）書友社
令和5年3月3日（金）～6日（月）、入場者数：2,125人

V 売店事業

1. 事業内容

- ・インターネットでの《秋田の行事》額絵の販売。
- ・秋田県立美術館ミュージアムショップ運営業者・光風舎へ委託販売。

2. 実績

・売り上げ総計 14品 2,150枚

内訳

《秋田の行事》レプリカ	498枚
《秋田の行事》額絵	47枚
絵はがき14種	1,605枚